

事業報告書

令和6年度

社会福祉法人 緑風会

特別養護老人ホーム 緑風館

緑風デイサービスセンター

小規模多機能「みどりの家」

居宅介護支援事業所 緑風館

緑風在宅介護支援センター

《 目 次 》

I	法 人 の 概 要		1～3P
II	介 護 老 人 福 祉 施 設		4～23
III	短 期 入 所 生 活 介 護 事 業		24～25
IV	通 所 介 護 事 業		26～31
V	小 規 模 多 機 能 型 居 宅 介 護 事 業		32～37
VI	居 宅 介 護 支 援 事 業		38～39
VII	在 宅 介 護 支 援 セ ン タ ー		40～41

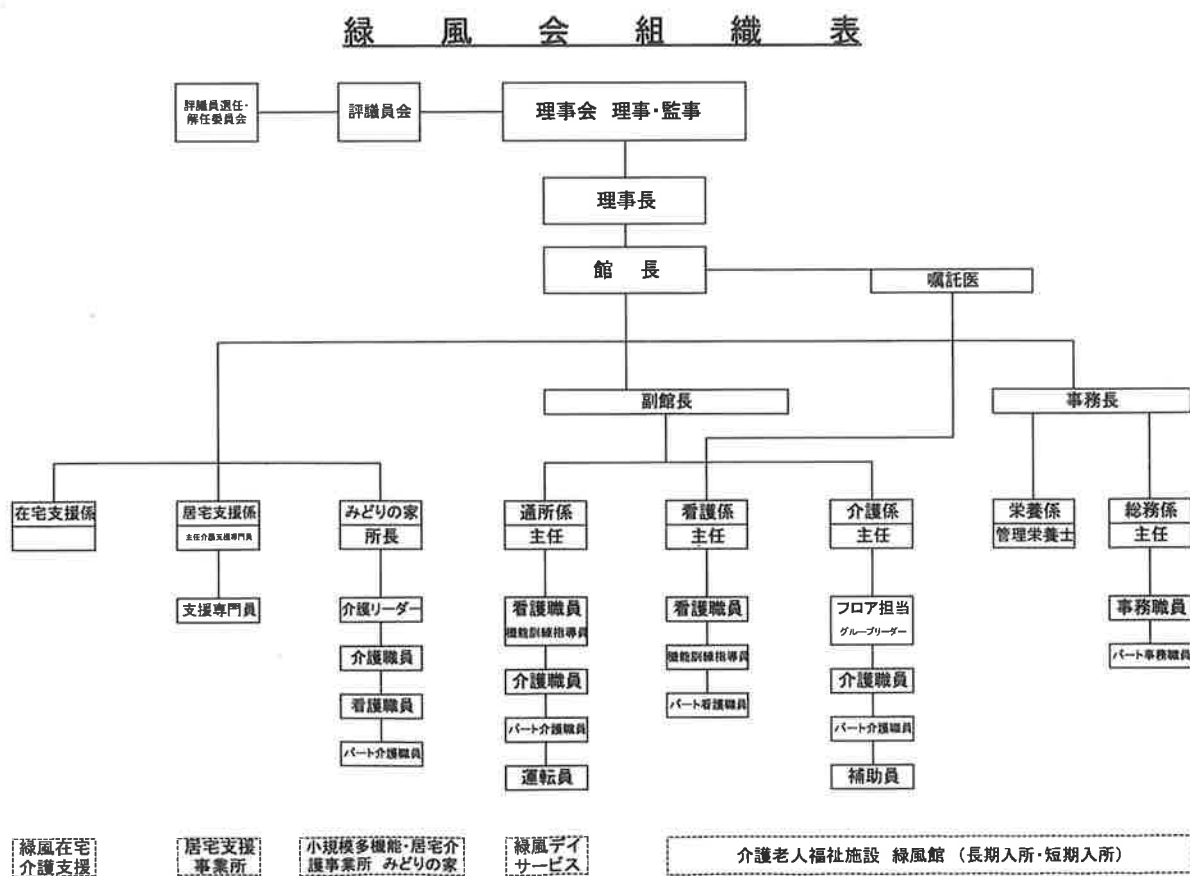
I 法人の概要

1 名称及び所在地

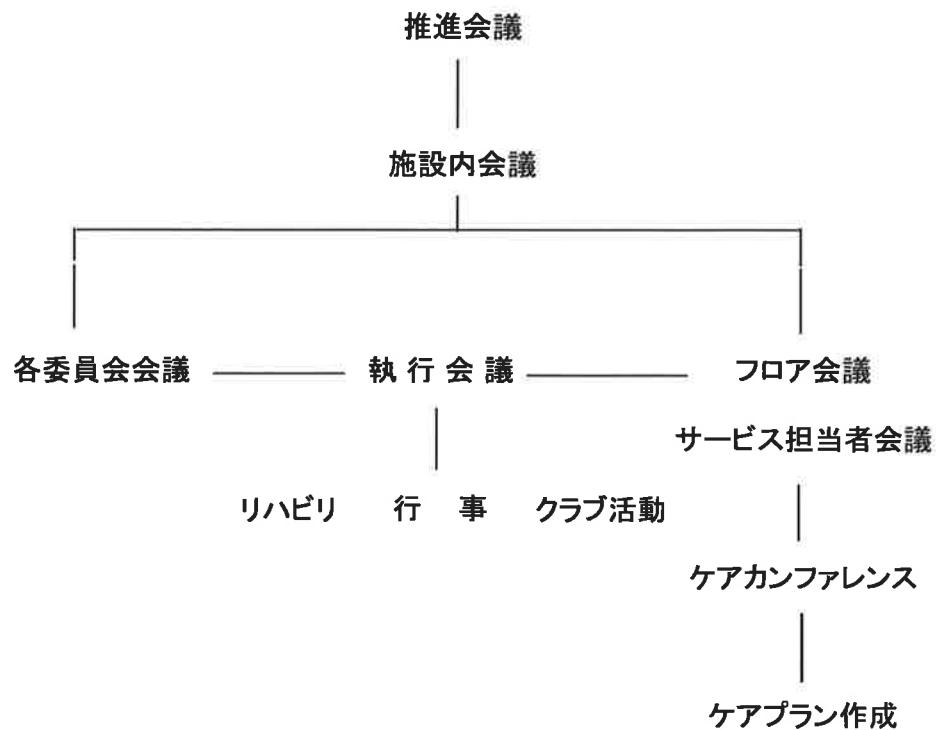
- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 法 人 認 可 平成6年2月7日

2 法人の組織

令和7年3月31日現在



3 業務の運営体制



4 職員の勤務体制

事務職員 日 勤 A M 9:00 ~ P M 6:00

ケアワーカー 早 出 A M 7:00 ~ P M 4:00
 日 勤 A M 9:00 ~ P M 6:00
 夜 勤 P M 4:30 ~ A M 9:30

看護職員 日 勤 A M 9:00 ~ P M 6:00

5 職員配置

事業別職員移動状況

区 分	介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム 緑風館		通所介護 緑風デイサービス		居宅介護支援 緑風館		小規模 みどりの家		緑風在宅介護 支援センター		合 計		
勤務形態	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	合計人 数
前年度末 職員数	21	29	3	9	2	1	4	11	1		31	50	81
6年度中 入職者	9	13	2	4			1	2			12	19	31
(うち介護職員)	9	9	1	4			1				11	13	24
6年度中 退職者	4	10	2	4			1	1			7	15	22
(うち介護職員)	4	8	1	3							5	11	16

事業別職員配置状況

()は、非常勤職員数

施設長	1										1	0	1
管理者							1				1	0	1
嘱託 医師		1 (0.1)									0	1 (0.1)	1 (0.1)
事務 職員	2	1 (0.7)									2	1 (0.7)	3 (2.7)
相談員	0.5		1								1.5	0	1.5
介護支援 専門員	0.5				2	1 (0.9)				1 (0.6)	2.5	2 (1.5)	4.5 (4.0)
ケア ワーカー 【うち介護 福祉士常 勤換算】	20 【10】	15 (10.5) 【3.0】	1 【1】	7 (4.9) 【2.8】			2 【1】	12 (7.7) 【3.3】			23 【12】	34 (23.1) 【9.1】	57 (46.1) 【21.1】
看護 職員	1	4 (4.0)	1	3 (2.3)				1 (1.0)			2	8 (7.3)	10 (9.3)
機能訓練 指導員	1										1	0	1
栄養士	1										1	0	1
その他		9 (3.1)									0	9 (3.1)	9 (3.1)
合計	27	30 (18.4)	3	10 (7.2)	2	1 (0.9)	3	13 (8.7)	0	1 (0.6)	35	55 (35.8)	90 (70.8)

Ⅱ 介護老人福祉施設

1 施設の概要

〔1〕名 称	特別養護老人ホーム 緑風館		
〔2〕所 在 地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19		
〔3〕開 設	平成6年6月20日		
〔4〕設 置 運 営	社会福祉法人 緑風会		
〔5〕定 員	60 名		
〔6〕土 地 ・ 建 物	土地面積	2,742.36㎡	
	建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建(一部4階)	
	建物延面積	3,020.41㎡	

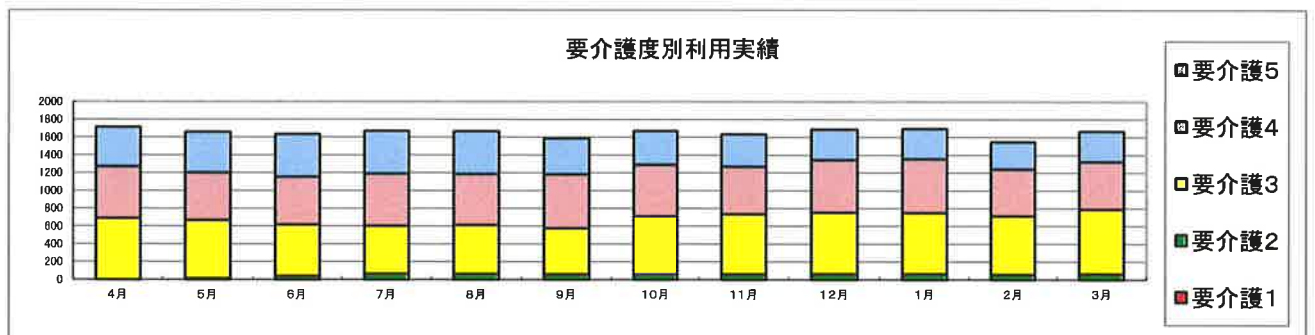
2 入所者の状況

〔1〕月別入退所者数

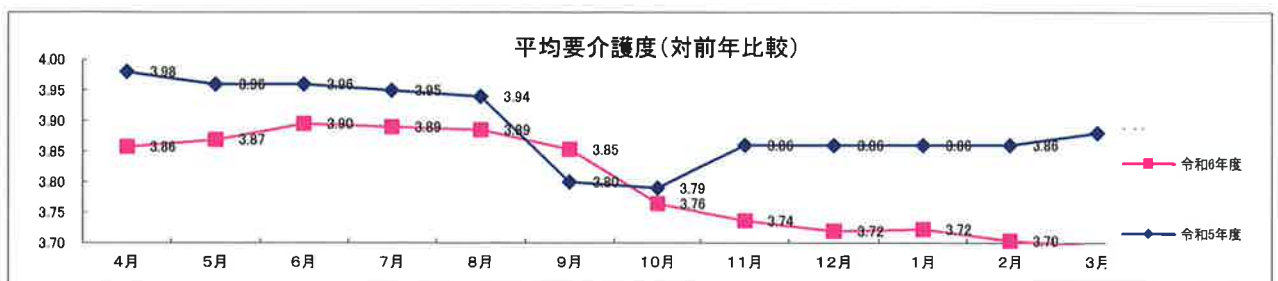
区分	平成6 ～ 令和5年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	令和 6年 度計	累 計	男	女
入 所 数	521	0	2	2	0	1	1	5	1	3	1	3	3	22	543	149	394
退 所 数	462	2	0	0	5	1	1	3	1	2	2	2	4	23	485	136	349
月 末 在 籍 数		57	59	61	56	56	56	58	58	59	58	59	58				

〔2〕要介護度別利用実績

区分			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度	要介護1	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護2	人	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	21
		延	0	14	37	62	62	60	62	60	62	62	56	62	599
	要介護3	人	24	22	22	21	19	18	23	23	24	23	25	26	270
		延	689	651	577	540	549	517	648	675	691	688	657	727	7609
	要介護4	人	19	19	19	20	19	21	22	19	20	20	20	21	239
		延	581	534	540	589	575	606	582	533	593	606	526	533	6798
	要介護5	人	16	17	18	18	17	16	14	15	15	15	14	13	188
		延	445	462	480	480	482	404	378	365	342	341	310	343	4832
	合計	人	59	59	61	61	57	57	61	59	61	60	61	62	718
		延	1715	1661	1634	1671	1668	1587	1670	1633	1688	1697	1549	1665	19838
	平均介護度		3.86	3.87	3.90	3.89	3.89	3.85	3.76	3.74	3.72	3.72	3.70	3.69	3.80



平均要介護度													
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	3.98	3.96	3.96	3.95	3.94	3.80	3.79	3.86	3.86	3.86	3.86	3.88	3.89
令和6年度	3.86	3.87	3.90	3.89	3.89	3.85	3.76	3.74	3.72	3.72	3.70	3.69	3.80



〔3〕入所期間別状況

(令和7年3月31日現在)

区分	6ヶ月未満	6ヶ月以上 ～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上	合計
男	5	1	4	1	2	0	13
女	11	2	16	10	5	1	45
合計	16	3	20	11	7	1	58

平均入所期間	2年5ヶ月
--------	-------

〔4〕年齢別分布状況

(令和7年3月31日現在)

区分	60～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男	1	2	2	2	6	0	0	13
女	1	4	6	7	14	11	2	45
合計	2	6	8	9	20	11	2	58

平均年齢	男性 85 歳	女性 89 歳	平均 89 歳
------	---------	---------	---------

最少年齢	65 歳	最高年齢	104 歳
------	------	------	-------

〔5〕身元引受人状況

(令和7年3月31日現在)

続柄	配偶者	子	孫	甥・姪	兄弟姉妹	成年後見人	合計
人数	5	43	0	2	3	5	58

〔6〕退所事由別数調

区分	死亡		長期 入院	その他	合計
	施設	病院			
退所者数	7(5)	4	12	0	23

※()内は看取り介護の数

〔7〕入所前居住場所調

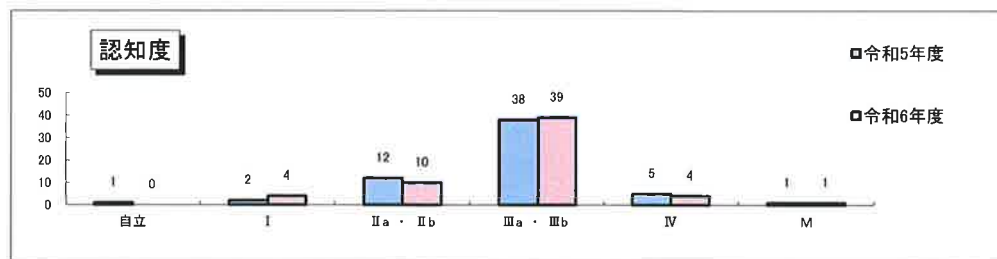
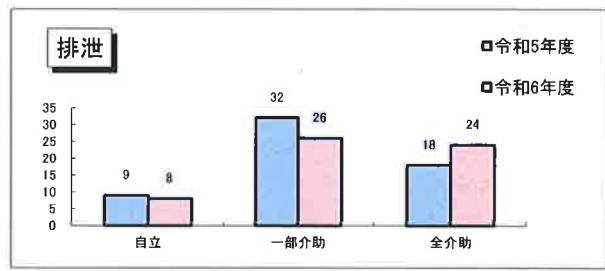
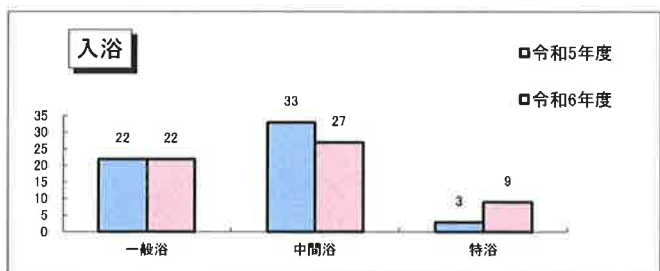
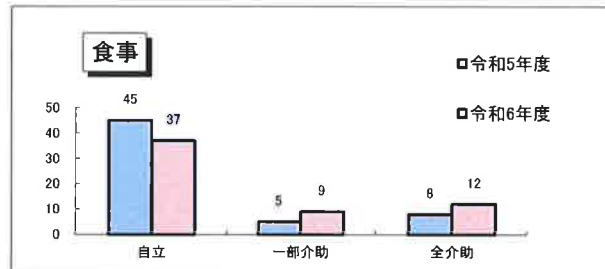
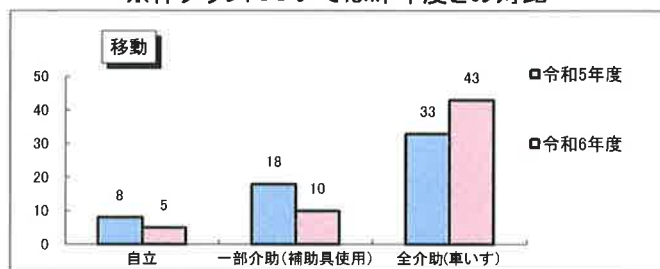
区分	在宅	療養 病院	老健 施設	介護 医療院	その他	合計
入所者数	12	3	7	0	0	22

[8]入所者の日常生活・認知度状況

(令和7年3月31日現在)

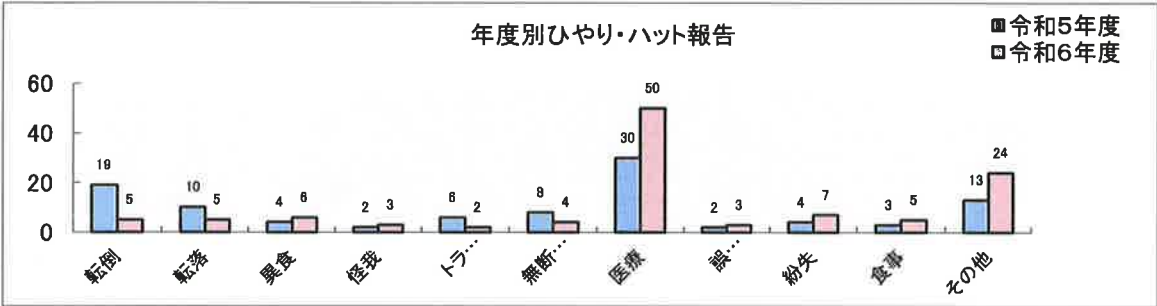
区 分		令和5年度	1階	2階	3階	合計	割合
移動	自立	8	0	4	1	5	9%
	一部介助(補助具使用)	18	2	4	4	10	17%
	全介助(車いす)	33	15	15	13	43	74%
食事	自立	45	12	15	10	37	64%
	一部介助	5	4	3	2	9	15%
	全介助	8	1	5	6	12	21%
入浴	一般浴	22	4	11	7	22	38%
	中間浴	33	10	7	10	27	47%
	特浴	3	3	5	1	9	15%
排泄	自立	9	1	3	4	8	14%
	一部介助	32	10	10	6	26	45%
	全介助	18	6	10	8	24	41%
認知度	自立	1	0	0	0	0	0%
	I	2	2	2	0	4	7%
	Ⅱa・Ⅱb	12	4	4	2	10	17%
	Ⅲa・Ⅲb	38	10	15	14	39	67%
	Ⅳ	5	1	1	2	4	7%
	M	1	0	1	0	1	2%

※棒グラフについては昨年度との対比



[9]ひやり・ハット報告書作成状況

区分	令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	19	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	5
転落	10	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	5
異食	4	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	2	6
怪我	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
トラブル	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
無断外出	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	4
医療	30	5	2	2	4	1	4	7	5	5	5	7	3	50
誤嚥・誤飲	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
紛失	4	2	0	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	7
食事	3	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	5
その他	13	4	3	0	1	0	1	1	3	2	4	4	1	24
合計	101	14	7	3	8	3	7	12	10	11	11	16	12	114



[10] 事故報告(市への報告事故)状況

区分	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院の有無
1	令和6年6月13日	転倒	右大腿骨転子部骨折	女	翠鳳第一病院	有
2	令和6年7月4日	不明	右上肢二頭筋打撲	女	淡路医療センター	無
3	令和6年8月27日	不明	右大腿骨転子部骨折	女	洲本伊月病院	有
4	令和6年12月13日	転倒	切傷・擦過傷	女	淡路医療センター	無
5	令和7年2月11日	転倒	仙骨骨折	女	淡路医療センター	有
6	令和7年3月8日	不明	腰椎圧迫骨折	女	翠鳳第一病院	無

[11] 苦情・要望状況

苦情	10 件
要望	12 件
意見	7 件

家族から	23 件
利用者から	5 件
事業所から	0 件
その他	1 件

3 総務係

(1) 収支差額の確保

①職員不足の影響により、事業収入減となり収支差額が確保できなかった。

②財務状況を職員会議で報告し各事業の収入確保の検討した。

また、購入物品の再見積りや契約の見直しにより経費削減した。

③介護職員等処遇改善加算、処遇改善支援補助金、看護加算等について、職員配置及び加算要件を確認し、適切に加算取得した。

(2) 労働環境改善・業務改善

①Webシステム(ズーム)を活用して、職員会議及び外部研修等に参加した。

また、職員研修をオンライン動画研修を活用して職員の負担を少なく学べる体制にした。

(3) 施設設備・修繕

①給湯器、空調、厨房機器、車両等、老朽化した設備機器を修繕した。

また、緑風館とみどりの家の介護ソフト・緑風館のサーバーの更新をした。

(4) 人材の確保・育成

①島内6高等学校と県内専門学校を訪問し求人票を提出、情報交換をした。

ハローワーク紹介により8名、紹介会社活用により採用者9名うち外国人5名

職員紹介により9名、ホームページ等ウェブ2名、本人応募等その他3名を採用した。

②施設内外研修、オンライン研修により人材育成した。

外部研修会参加一覧表

(うちオンライン研修参加数)

研修内容	特別養護老人ホーム緑風館	緑風デイサービスセンター	小規模みどりの家	居宅介護支援緑風館	緑風在宅介護支援センター	合計
医療連携	3	1				4
防災・感染予防	12	4		2 (2)	1 (1)	19 (3)
食事・給食業務	4					4
行政・保険・法改正	7 (1)					7 (1)
ケアマネ	1			34 (2)	7	42 (2)
資格取得・スキルアップ・人材育成	87 (75)	1	17 (7)	1 (1)		106 (83)
地域サポート・ケア	17	1			11	29
その他	20 (1)		1	1 (1)		22 (2)
合計	151 (77)	7	18 (7)	38 (6)	19 (1)	233 (91)

(5) 社会福祉法人として地域貢献活動を実施

①地域サポート施設の活動として地域高齢者の見守りとして、高齢者9人に実施した。

(6) 施設防災計画

①防災マニュアルの見直しと備蓄食品の確認と更新をした。

(7) 法人及び経営情報を公表

①現況報告書等(現況報告書、計算書類)の情報を公表しました。また、ホームページにおいて、事業計画書、事業報告書、決算関係書類、処遇改善計画書を公表した。

4 栄養係

(1) 栄養ケア・マネジメント

①体重や食事摂取量の変化について多職種で検討した。栄養状態の改善に向けて食事内容の変更をし、必要に応じて栄養補助食品を提供した。

②必要栄養量を摂れるよう、咀嚼・嚥下能力に合った形態の食事を提供した。

③排泄委員会と連携し、スムーズな排便への取り組みを行った。

実施途中で自然排便が難しくなった時には、別の商品に変更することで自然排便に繋がった。

④口腔機能及び嚥下機能にあわせた食事提供については、内科医師と歯科医師の指示のもと経口維持(Ⅰ)(Ⅱ)を計画し、実施した。

経口維持

(人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者	Ⅰ	13	12	10	11	11	11	11	11	11	13	12	137
	Ⅱ	13	11	9	11	11	11	11	9	11	13	12	133

(2) 安全安心な食事の提供

①感染症予防のため、厨房職員のうがい手洗い及び日々の体調維持管理を徹底した。

②安全な環境の下での食事提供については、非常食を含めた食品の賞味期限の確認を行い、期限内に使用した。

掃除と消毒を徹底し、厨房内の衛生状態を保った。

③介護職員と栄養士により「配膳室チェックシート」を用いて、配膳室の衛生管理を行った。

(3) 食の楽しみ

①季節を感じる食事として、特養では行事食、デイサービスではお楽しみ食を提供した。

【特養】

4月	7月	9月	11月	12月
お花見弁当	七夕食	敬老食	美食ランチ	クリスマス
1月	2月	3月		
おせち	節分食	ひな祭り食		

【デイサービス】

11月	12月	1月	2月
寿司バイキング	鍋パーティ		

②喫茶コーナーでは、希望のあったメニューを用意し、選んでいただくことで普段とは違うおやつを提供した。

5 介護計画係

(1) 多職種連携による情報収集、分析

①定期的なケアカンファレンスと家族との情報交換

「ケアカンファレンス 本人及び身元引受人の参加実績」

区 分	令和5年度	令和6年度	前年対比
開催回数	132回	127回	5回減

本人 参加回数	11回	8回	3回増
身元引受人 参加回数	122回	114回	8回減
本人及び身元引受人 参加率	100%	100%	

※ 127回開催予定であったが、遠方の身元引受人や体調が不安定な方への配慮のため、郵送で対応。

「ケアカンファレンス参加者の続柄別内訳」

区 分	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟姉妹	甥・姪	成年後見人	その他	本人	合 計
参加延人数	7名	101名	22名	4名	4名	8名	8名	0名	8名	162名
割 合	4%	63%	14%	2%	2%	5%	5%	0%	5%	100%

②ケアプランの適時見直しや身元引受人との相談支援を綿密に行うことで、身元引受人との信頼関係を更に 深める事ができた。また、土日、祝日の出勤への配慮や、家族への事前連絡の実施、各専門職への柔軟な連携を図ることでスケジュールに合わせることができた。

ケアカンファレンス日程変更日数	35件	※ 昨年度17件
-----------------	-----	----------

(2)継続的かつ根拠のある課題分析

①②「令和6年度 アセスメントツールの活用実績」

アセスメントツールの種類	緑風シート	センター方式 A-3	センター方式 A-3以外
延利用者数	255名	110名	4名

利用者個々の状態に合わせたシートの活用により、その人らしさの追求や自立支援を行い、生活の質の向上に繋げることができた。緑風シートは定期3か月毎と適時、センター方式は半年毎、生活機能チェックシートは毎月更新することができた。

③認知症ケア委員会と連携して4名について課題抽出シートを使用して心身状態の把握に努め、ケアプラン作成時のサービス内容の更新ができた。ただし、課題抽出シートの活用数が課題に対して少ない印象にあるため、改めてツールの知識を高める機会を設けていくことで、よりアセスメント力をつけていく必要がある。

(3)ケアプラン実施に対する定期的な効果検証

①ケアプラン作成・変更の2週間後のモニタリングは36名について実施し、効果検証を行った。うち、定期更新以外の適時の変更が必要となった利用者について13名のケアプラン変更を実施することができた。

②毎月のモニタリングは担当者が行い、介護支援専門員が確認している。また、生活機能チェックシートについて、毎月担当者が入力し、モニタリング、再アセスメントを行うことで客観性をもった確認ができ、利用者の変化を捉えながら迅速なケアの見直しにも繋がっている。

6 生活相談員

(1) 利用率目標値の達成

①「長期入所、短期入所の利用率実績」

長期入所	短期入所	特養全体
------	------	------

93.6%	82.6%	91.9%
-------	-------	-------

(2) 定期的な事業所訪問と情報交換

①「関係機関への訪問件数」(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14	8	7	7	0	2	2	6	6	6	9	12	79

「関係機関との情報交換」(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
13	14	13	11	0	0	2	7	8	6	10	10	94

(3) 加算の取得

- ①新たな加算取得の情報集約については、情報集約には努めた。社会情勢を鑑み、医療体制基盤の向上や感染対策の重要性を踏まえた上でこれに準ずる加算を取得することができた。
- ②新たな加算取得に向けて検討を行う。人員配置や専門職の配置を考慮し、科学的介護推進体制加算をはじめとして、今現在取得できるものに関して整理し、取得できるものは取っている。

(4) 住民及び他事業所への情報提供

- ①空床状況表の更新については、人材不足によりショート入所制限を実施した経緯があり、今年度は実施できなかった。今後も必要に応じて作成できるよう努めていきたい。
- ②空床状況表については、上記の通り作成できなかったため、配布できなかった。広報誌については、発行月には訪問の際に必ず配布した。配布後には良い反応があった。
- ③情報発信に関しては、SNSを主に活用し定期的なアップはできた。特に「Instagram」や「Tik Tok」、「Facebook」に普段の様子やレクリエーション、行事等の様子をアップすることで、良い反応も見られた。

(5) 社会資源との結びつきに対する工夫

- ①ボランティアの受け入れについては、レクリエーション(喫茶コーナー)のボランティア、洗車のボランティアは定期的に来館してもらっている。また、新年会やひな祭り会等、年間行事の際には、近隣のボランティア団体の方々が来られ、利用者皆さんを楽しませてくれた。実習生の受け入れについては1名あり、緑風館の就職へと繋がった。
- ②施設内ホールの住民への開放は、いきいき百歳体操等、地域住民への開放を行った。行事やレクリエーションにおいては、学校や保育園をはじめとする地域の方々との交流を図ることができた(七夕祭り・豆まき会⇒広田保育園)。

7 1・3階介護係

(1)安心、安全に向けた支援の確立

- ①毎日、業務の一環として利用者の居室、廊下、食堂、トイレの感染予防消毒を実施、食前、食後排泄介助後の手指のアルコール消毒の徹底を行った。
- ②毎月のフロア会議にて各種発見より分析と対策について検討を行った。フロアの事故に繋がる可能性の高い物より対策を実施し、事故や各種に繋がる物への軽減に努める事ができた。
- ③フロアに新しくソファを購入し、利用者の過ごしやすい環境作りを行った。レクリエーションの物品を整理する棚を設置し、毎日希望に沿ったレクリエーションの実施ができた。食事の際

もフロアの食器棚横にふりかけを置く棚を作り、利用者にも見て選べる工夫を行い食事を楽しんでもらえるようにできた。

④排泄、食事のタブレットの活用でペーパーレス化に繋がった。移乗用リフトの積極的な活用と転倒リスクが高い利用者へのセンサー付きベッドの活用。又、眠りスキャンを活用する事で身体的心拍把握や転倒危険察知ができ、状態の把握と転倒予防に努める事ができた。家族の希望に沿いiPadでのリモート面会も実施する事ができた。

(2)その人らしさの追求

①家族の要望も聞き入れながら、居室を個々の利用者に応じた空間に変更する事ができた。

②下記のレクリエーションを実施した

4月	三色団子作り(1階) 体操・ボール遊び(3階)	10月	体操・ボール遊び(1階)(3階)
5月	ボウリング大会(1階) ミニ喫茶(3階)	11月	ミニ喫茶(1階) 秋のお茶会(3階)
6月	散歩(1階) おやつ作り(たこ焼き)(3階)	12月	クリスマスケーキ(1階)(3階)
7月	ミニ喫茶(1階) フルーツポンチ作り(3階)	1月	風船バレー(1階) かるた・福笑い(3階)
8月	ボウリング大会(1階)(3階)	2月	ミニ喫茶(1階)(3階)
9月	おやつ作り(プリンアラモード)(1階)(3階)	3月	感染症の為、中止

③24時間生活変化シートを活用し、衣類やパッド類の取り込みの観察やアニマルセラピーでのメダカの飼育様子の観察等にセンター方式を2名実施した。実施件数が少ない為、フロア会議等で課題抽出を行い、積極的な活用の検討が必要である。

④ADL維持の為、フロア会議で検討し委員会や担当職員と連携を図った。自立した食事摂取を目標に食事用具や環境の見直し、居室の担当職員とは、利用者の居室環境を見直し、ベッド柵やベット位置や柵を変更する事で自身の力を活用した移動介助ができるようになり自立支援に繋げる事で、自立した食事摂取をができた。

(3)尊厳への配慮

①フロア会議等を利用し、勉強会の実施を行ったが勉強会を行うには時間がなく不十分だった為、今後は、ジョブメドレーアカデミーを活用し勉強会の時間を設けていきたい。

②プライバシーに配慮された環境作りについては、フロア会議等でも各担当職員とも検討を行ったが具体的な環境改善には繋げる事はできなかった。

③フロアでの不適切ケアについては、個々の職員面談の中で虐待に繋がる話を個々に行い、不適切ケアに繋がる可能性となる物については、未然に防止する事ができた。

(4)情報の共有化

①1.3階で活用している申し送り様式を活用する事で、口頭の申し送りの短縮、様式を閲覧する事フロア全職員周知徹底する事に繋がった。フロアが合同な為、職員全体で利用者の情報共有に繋げる事ができた。

8 2階介護係

(1)安全できる生活環境づくり

①フロアや居室の環境については、利用者の視点で考え、ペーパー取りやすい位置に設置したり、居室の環境についても、居室担当を主として、安全に生活ができるように改善した。

②福祉用具の見直しと積極的なICTの活用については、利用者に合った車いすの選定をすることにより、安心・安全に務めた。ICTの活用についても、眠りスキャンを有効利用することで、利用者の状態把握に努めた。

(2)利用者主体のケアの確立

①認知症委員会を主として、センター方式を利用して、その人の行動パターンを知り、その人らしい、生き方支援に努めた。

②尊厳に配慮されたケア力の向上については、推進会議やフロア会議で議題にあげ検討することにより、不適切ケアについて深く知り、尊厳に配慮したケアができるよう、活かした。

③利用者と季節の飾り物を作成し、掲示物(作品)をフロアに飾ることにより、楽しみやいきがい支援に繋がった。

(3)安全性に配慮されたケアの工夫

①毎月のフロア会議で発見報告や事故報告について、事例検討し、一つでもリスクを軽減できるように努めた。

②感染症対策については、年度末に新型コロナが蔓延し、今後の感染予防対策について再度検討し、さらなる感染予防対策に力を入れたい。

③専門職間の情報共有については、各委員会や特養会議を通して、問題点等を話し合い課題の解決に繋がった。

(4)職員のスキルアップ

①施設内研修や、個別での研修に参加することで、個々のスキルアップには繋がった。

9 看護係

(1) 嘱託医との連携による健康管理

①利用者個々の既往歴については、入所時や病変時等に生活相談員及び介護支援専門員、嘱託医と連携を図ることで状況把握に繋がっている。体調不良時には嘱託医に報告を行い指示を仰ぎ、適切な対応が実施できた。

②定期血液検査や健康診断、各種予防接種のサポートは確実に実施できた。

血液検査	76名	健康診断	57名
インフルエンザ予防接種	55名	肺炎球菌予防	0名
新型コロナワクチン接種	0名		

(2) 感染症等の予防と対策

①マスクやガウン、手指消毒液等の備蓄管理については総務課と連携を図り、不足がないよう配慮した。また、感染症及び感染症の疑いがあるケースに関してはガウン等防護の徹底を行うよう喚起を図った。マスクや手指消毒に関しては、継続的に全職員への使用を勧め、職員も使命として常用的に活用している。

②感染症発生時対策について、これまでの経験を活かし迅速で確実な対応に近づいている。感染症対策委員会は年4回開催、感染症対策も踏まえた医療的テーマの施設内研修も年3回開催することができたので、職員教育や周知徹底、啓発に繋がった。

③マスクやガウン、手袋、手指消毒液等の備蓄は、多職種と連携を図りながら残数をチェックし

てその都度追加発注を行い、職員に対して使用喚起に努め定着化に繋がった。マスクに関しては利用者にもできる限りの使用を勧めている。

(3) 床ずれゼロの推進

①各種発見等の活用により早期発見に努め、必要に応じて嘱託医と連携を図り治療を行うことで、早期治癒に繋がっている。

②介護係はもちろん、医療、各委員会との連携による床ずれの早期発見により、早期治療に繋がっている。今年度は床ずれの発生はなかった。

(4) 協力歯科医との連携による口腔ケアの充実

①協力歯科医による定期的な歯科健診、口腔内のモニタリングを行うことで、適時要治療者には治療を行いながら、個々に合わせた口腔ケアを行うことにより、口腔内の健康管理に努めることができた。また、特養全体に対しての助言や質問に対する返答も引き続き随時頂けている。

②食と健康を考える会をはじめ、栄養係等各職種と連携を図り、歯科健診内容を踏まえて随時情報を更新し、ケアに活かしている。口腔ケアやスムーズな経口摂取に対してモニタリングや検討を行うことで、歯科医と相談しやすい体制は引き続き整っている。

(5) 看取りケアの充実

①嘱託医、各専門職との連携を図ることで、5名の利用者の看取りサポートができた。

②嘱託医を中心に多職種連携により終末期を的確に見極め、その人らしい最期を迎えられるよう、本人、家族の意向を尊重し、看取りサポートができた。嘱託医からの相談や説明についても、その都度本人や家族に希望等を確認し、必要に応じて対応している。

③エンゼルケアの充実に関しては、今年度は勉強会等、スキルアップに向けての取り組みは実施できなかった。

(6) 機能訓練計画の策定と実施

①個別機能訓練計画書は、3ヶ月毎に評価と見直しを実施した。利用者の心身の変化があれば、都度計画書の見直しを行っている。

機能訓練計画書 更新件数	1階フロア	2階フロア	3階フロア
	64件	97件	74件

②担当者をはじめ介護支援専門員、生活相談員と更新の度に相談し検討を行うことで、利用者個々に合った計画の策定、実施を行っている。

10 リスクマネジメント委員会

(1) 危険予測、事故事例の情報集約と統計分析

①継続して情報集約強化のため、事業所ごとの集計を行っている。集計を行い統計分析を実施することで、事故予防にも繋がっている。昨年度に比べると各種発見報告が39件増、ひやりハット報告が73件増、気づき報告が48件減となっている。おもに各種発見の増加と気づきの減少が今後の課題としてあげられ、ひやりハット報告同様に気づき報告に関しても記載しやすい書式の作成や、組織の風土作りを検討していく必要がある。

苦情や意見、要望に関しては昨年度に比べ2件増となっている。大半が家族からのものとな

っているため、引き続き何でも言いやすい関係性を築いていきたい。

各種発見・事故	477件	ひやりハット	177件	気づき	156件
---------	------	--------	------	-----	------

②各部署ごとの会議を毎月実施し、事故やひやりハット報告の検討を行い、事故の再発防止に努めた。また毎月のリスクマネジメント委員会では各部署ごとの事例検討内容の発表を行い、法人内での情報共有に繋げることができた。事故件数(市への報告事故)は6件であった。

③令和6年12月の施設内研修においてKYT(危険予知トレーニング)シートを活用しグループワークを実施した。グループより発表を行い、気づき力の強化に繋げることができた。

(2) 安全性の向上

①毎月の特養会議において福祉機器の必要性について検討し、必要数や定期安全確認を行った。車いすを含む福祉機器のデータ管理も継続している。

②移乗用リフトや眠りスキャンの活用が業務の効率化や職員の負担軽減、利用者の体調管理に繋がっている。また感染症が発生した際には見守りカメラの活用をおこなった。

11 身体拘束ゼロ委員会

(1) 身体拘束ゼロの継続推進

①法人として身体拘束ゼロは継続して実施しており、事故リスクの軽減に努めている。

「リスクマネジメント委員会」においても、積極的な課題解決を実施している。委員が各セクションに内容を持ち帰り、職員全体に周知を図っている。

②委員会は推進会議内で毎月開催。「身体拘束」の根絶継続に向けて法人全体として意識の統一を図った。各セクションの会議内において、研修会を実施することで理解を深め、日常のケアを振り返ることができた。

③施設内研修については、12月に「身体拘束廃止」をテーマに開催し職員の意識づけの強化を図った。2月にも開催予定であったが、研修方法の変更に伴い内容変更となり、身体拘束廃止についての研修はできなかった。結果、年1回の開催に止まった。

12 虐待防止検討委員会

(1) 虐待防止対策の基盤強化

①「リスクマネジメント委員会」及び「認知症ケア委員会」等が中心となり、各委員が各部署に内容を持ち帰り、職員全体に周知を図っている。

②各部署でケアについて振り返り、不適切ケア防止策を話し合うことで尊厳に対する配慮、高齢者虐待防止を図っている。また、法人全体において不適切ケア防止対策目標を設定し、定期的に評価することで課題解決や意識づけに努めた。

③委員会の開催は年4回(5月、8月、11月、2月)開催し、高齢者虐待防止、高齢者への尊厳についてふれ、新聞等メディアの報道を具体的にピックアップし、照らし合わせて検討した。

④施設内研修の開催は年2回(4月、7月)に実施。これにより虐待防止や不適切ケア防止の意識向上に努めた。

13 感染症対策委員会目標

(1) 感染症予防対策の強化(インフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロウイルス等胃腸炎への対策)

①看護職員を中心とした施設内研修の実施(5月、6月、11月)

11月には淡路医療センター感染管理認定看護師を招き、「施設の感染対策」について講習を受けた。

②職員や来館者、利用者への手洗いと手指消毒の励行強化と流行時には面会を控えていただくよう協力を仰いだ。

③定期的な備蓄の残数確認を実施し、在庫不足にならないように管理を徹底した。

④淡路島圏域における感染症流行の対策強化(各サービス、家族訪問を控えて頂く等協力を仰ぐ)感染動向を確認し、都度対応を行った。

⑤ 職員、利用者の健康管理と把握(早期の体調不良者の発見)

職員は、毎日出勤時に検温の実施を継続している。利用者は、介護、看護連携を図り早期発見につなげていたが、みどりの家14名と特養36名がコロナ感染症に罹患した。収束後には反省をふまえ次回への取り組みについて話し合った。

(2) 感染症発生時の対策強化

①利用者の体調不良時における統制された対応(ゾーニング、居室、フロア移動等の配慮)熱発、嘔吐等の症状がある利用者に対して、個室での対応を行った。

②感染予防マニュアルに沿ったケア実施の徹底は都度実施できている。

③関係機関への報告・連絡は、都度実施している。

14 災害対策委員会

(1)施設における業務継続企画(BCP)への取り組み

①施設内研修(10月)にて、淡路広域消防職員により救急救命講習を実施する。

11月に業務継続企画(BCP)の見直しを行った。

②緑防災カフェ(1月)に参加して地域住民と防災について話し合うことができた。

③管理栄養士と連携を図り非常時備蓄品を作成した。

15 栄養管理委員会報告

(1)健康保持増進への対策

①利用者の健康増進に向けて、委員会を年6回開催した。

②食事に関する意見をまとめ、委託業者に要望を出した。

(2)食を楽しむ計画作成

①行事食は委託業者と計画し、年9回提供することが出来た。

ふれあい食事会に変わり『美食ランチ』を実施するため、「食と健康を考える会」を通して利用者の希望を取り入れたメニューを考え、提供することができた。

②喫茶コーナーは年間を通して、1Fフロアは8回、2Fフロアは11回、3Fフロアは11回実施した。

(3)施設食事基準表の見直し

①療養食を見直し、食品構成表を作成した

16 食と健康を考える会

(1)安全且つ快適な食事環境への整備

①利用者の体調や身体状態に合わせて検討を行い、食事席の変更やオーバーテーブルの使用により、快適に食事を勧める事ができた。

②温冷配膳車の導入により配膳車に適用した食器の変更を行った。また、各セクションにおいて個々にあった食器や自助具の選定も行った。1階⇒4名・2階⇒3名・3階⇒3人の計10名が快適な食事環境につなげる事ができた。

③定期的に環境づくりについての変更、修正をしていく事でよりよい食事環境につながった。

(2)協力歯科医との連携による口腔ケア実施

①健診者⇒60名、モニタリング者⇒15名、治療者⇒8名、歯科検診での新しいチェックリストを作成し、定期的な健診(モニタリング)を実施した。

②歯科健診での健診結果や助言を基に、個々にあった口腔ケアの見直しを実施した。

(3)食事ケア・口腔ケアにおける質の向上

①食事委託会社より「シン・食事サービス」の導入により研修を実施し職員へ周知した。

②美食ランチ開催にあたり、利用者へアンケートを実施し、人気のメニューを取り入れることで大好評であった。

③食事介助のマニュアルを更新した。

(4)その人らしさの追求と尊厳への配慮

①エプロン使用については定期的に見直しを行った。

②1階⇒26名、2階⇒15名、3階⇒32名が食事形態の見直しをおこなった。口腔ケアについても自立支援による側面な支援を実施できた。

17 排泄委員会

(1)快適な排泄の実現

① 個別排泄ケアとして年2回(6月と12月)の尿量測定と、定期的な見直しを実施し、41 名の方が排泄用具の変更を行う事ができた。

②紙パンツから下着(コットンパンツ)へ、6名の方に対して見直しを行う事で快適性やコストの削減を達成する事ができた。

(2)スムーズな排便への取り組み

①スムーズな排便への取り組みとして、今年度31件の事例を検討した結果、8名の方は継続して効果が表れた。

下剤の服用と浣腸の回数も減少しており、スムーズな排便への取り組みに繋がっている。

スムーズな排便への取り組み実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1階	0	2	1	0	0	2	2	2	2	1	2	1
2階	3	0	0	1	0	0	0	2	1	1	0	0
3階	1	2	0	0	2	1	0	0	1	0	0	1

②11月より排泄タオルがリースへ変更した事により、職員の洗う手間の業務削減と感染症対策にも繋げる事ができた。

③iPadでの排泄の記録の入力、ケアポータの使用について、各セクションの排泄時間の見直しマニュアルを新しく更新する事ができた。又、外国人入職もあった為、マニュアルには、外国人職員にも解るようにふりがなも使用している。

(3)自立支援を踏まえた排泄ケアの実施

①安全且つ統一された排泄介助の代替えケアを検討し、実施する事で年間1名の利用者についてトイレが可能となった。

②個人別排泄留意表の作成、更新を毎月行いながら、排泄用具や排泄ケア内容等の整合性を確認できた。

(4)排泄ケアの知識向上

① 外部研修への参加はできなかったが花王による排泄ケアにおける陰部洗浄の勉強会を実施し知識を深め各フロアの委員メンバーから各セクションに資料等を配布し知識の周知を行った。また、大王製紙による他社の排泄用具の勉強会と試行を行う事で当て方の工夫やパッドの種類を知る事ができた。

(5)コストの削減

①各フロアの排泄委員にて、排泄用具が適切に使用されているかを介助時に確認を行っている。また、排泄表の更新も都度実施している。排泄用具の見直しや試行観察も適時、行っている。

②毎月、排泄委員長と業者が連携を図り在庫管理を実施し、使用量の把握を行っている。業者との報告、連絡、相談はメールを通じて行う事で迅速な対応も可能となっている。

(6)感染予防の徹底

①アルコール消毒を居室前、ケアポーターに入れ使用できる工夫を行うことで徹底を図った。

②フロア会議、委員会で手袋と防護服の重要性和感染予防のリスクを改めて周知することで手袋と防護服の徹底に繋げる事ができた。

③陰部・お尻・清潔保持については、委員メンバーが率先し排泄交換時の陰部洗浄を実施。またフロア会議で委員会より感染症リスクの説明と重要性を発信する事でお尻・陰部の清潔保持とただれの予防に繋げる事ができた。

18 入浴委員会目標

(1) 安心、安全への配慮

①6月と12月に大掃除を実施し、普段洗えていない場所の清掃を行った。高圧洗浄機等を使用することにより、排水溝やタイルのカビ清掃をスムーズに実施することができた。カビ防止剤を使用することで、カビ発生予防の効果がみられた。

②入浴に関するひやりハットや気づき報告(機械浴のお湯抜き忘れ、補充不足等)に対して、委員会内で今後の対策を検討し、各セクションへの報告を行った。

③物品の故障や破損等があった際には、適時業者に修理依頼した。また、物品購入を行い、在庫切れや不備のないよう取り組めた。

(2) 入浴ケアの統一化と充実

①曜日別入浴表については毎週、貴重品所持者一覧表については随時変更をした。個別入浴ケア方法については、年4回の更新を行った。新規利用者、状態変化時には、速やかに定期更新

書類の変更を行い、統一したケアに努めた。

(3)「お風呂が楽しみ」への追求

①7月と1月に入浴に関するアンケートを実施した。入浴に関する希望を聞き取ることで、個々に応じた快適な入浴に繋げることができた。

②年6回、季節湯を実施した。菖蒲葉、ハーブ、ゆず、みかん等、季節の果物等を使用することで、季節を感じてもらえたり、会話も弾み楽しんでもらえた。

③リラックスできる音楽を流したり、心地よい室温管理に努めた。また入浴剤については香りや色を変更することで、快適な入浴に繋げるよう努めた。

(4) 快適な環境づくり

①古くなった物品の買い替えにより、清潔感ある浴室づくりに配慮した。危険因子等について委員会で検討を行った。

19 認知症ケア委員会

(1)認知症に対する理解力の向上

①外部(WEB)研修への参加、(4大認知症、薬への理解)

4大認知症、薬に対する理解についてを担当に振り分けて勉強会を行い理解する事ができた。各セッションには発信できなかった。

②BPSD(認知症に伴う行動障害と精神症状)の理解をするために、委員会内で研修会を開催した。こに対するケアの在り方を再確認する事ができた。

今年度は委員会内だけの勉強会だけで各セッションには周知できるように務めた。

③不適切ケア(言葉遣い等)、虐待予防に向けての理解とスキルアップをする為に施設内会議での不適切なケアについての内容を委員会内で共有した。

(2)認知症ケアの充実

①各セラピーの効果について研修会を開く事で理解を深め、各セッションで実施した。

セッション	セラピー種別	対象人数	効果
1階フロア	アニマルセラピー	2	○
2階フロア	アロマセラピー	9	△
3階フロア	アニマルセラピー	2	○
デイサービス	なし		
みどりの家	アートセラピー	4	○

②特養入所のみ実施

1階フロア	2	2階フロア	2	3階フロア	3
-------	---	-------	---	-------	---

結果、生活リズムを観察、分析する事で日中の様子や夜間の不眠や、精神状態の安定、服薬の見直し等効果がみられた。

(3)認知症ケアに対する振り返り

①言葉かけ、不適ケア防止対策の検討と実施(チェックシートの作成)

各セッション(特養・デイ・みどりの家・事務所)で言葉かけ、不適ケア防止対策の検討(チェックシートの作成)を実施した。

又、セッションでも不適な言葉かけに対し、目標と対策を考え認知症ケアメンバーが主になり行

った。普段のケアについて個々に振り返りや見直しに繋がった。

②認知症ケアに関する施設内研修の実施

不適切なケア(言葉かけ)を議題としてグループワークを通じて発表を行ってもらった。

全職員に発信する事でケアに対して個々の振り返るきっかけに繋げる事ができた。

20 広報委員会

(1)地域に向けた定期的な広報活動

①緑風会の財務状況、施設情報を随時更新した。

②フェイスブック、インスタグラム、TikTok、ブログに年間行事や職員研修、日々の生活等の情報を投稿した。フェイスブック74投稿・インスタグラム・72投稿・ikTok12投稿・ブログ7投稿

③緑風だよりを年2回発行し、利用者・家族・他事業所・地域の方に配布した。

21 衛生委員会

(1)職場環境における安全性の確保

①共有箇所の4S活動について担当者と具体的実施内容を明確にし、実施評価した。

②労働災害については「作業環境」「作業内容」「疾患等罹患リスク」について委員会で検討し、対応策を実施することで予防に繋げることができた。今年度の労働災害は0件あった。

③施設内の床材等、劣化や破損している箇所の修繕工事を行った。

(2)職員に対する心身の健康管理

①外部研修の資料をもとに、6月7日衛生委員会において、勉強会を行った。

②年2回健康診断を実施し、有所見者には2次検査受診を勧めることで、職員の健康維持に努めた。

③全職員(83名)ストレスチェックを行い、今年度16名(去年度16名)の高ストレス対象者という結果であり高ストレス者対象者については、いつでも産業医に助言してもらえる体制をとって対応した。メンタルヘルスケアについては、外部講師による研修により理解を深めた。

④腰痛予防について、年1回、腰部保護ベルトの使用状況調査を行い、腰痛者を把握し産業医の意見をもと改善に努めた。腰部保護ベルト使用率は前年度60%に比べ、今年度は10%増加した。2年前からも増加傾向である。腰部保護ベルト使用者は下記参照。

		常用	頻繁	痛い時	ほとんど未使用	夜勤時のみ	未使用	使用率
令和6年度	腰部保護ベルト使用者数(総数85名)	10名	4名	23名	7名	8名	30名	65%
令和5年度	腰部保護ベルト使用者数(総数82名)	12名	6名	13名	15名	1名	32名	60%

⑤感染予防対策については4S活動と連動し、職場内を定期的に清潔清掃できた。

22 地域交流委員会

(1)地域住民との交流

①各地域老人会や各種団体の行事への参加(地域の祭り、梅まつり等)

日時	各種団体名	内容	参加人数
7月6日	全島一斉清掃	近隣清掃	8名
7月6日	愛宕神社	清掃参加	8名
7月15日		神事参加	1名
11月9日	全島一斉清掃	近隣清掃	12名
2月16日	広田梅林	梅まつり手伝い	2名
3月8日			2名
3月17日	愛宕神社	清掃	7名
3月20日		神事参加	1名

②不藤・広田南地区をはじめ、緑地区の住民との交流の機会をもてた。

(2) 地域支援

①ウエルシア広田店のウエルカフェを利用し、介護相談会を実施した。

日時	内容	介護相談	参加者
4月15日	鯉のぼり作り		12名
5月15日	痛みを再発させない体づくり		6名
6月14日	七夕飾り		10名
7月16日	熱中症の講話		7名
8月16日	夏祭り		9名
9月17日	口腔ケアの講話		5名
10月15日	体操		5名
11月15日	クリスマス飾り		6名
12月16日	お正月飾り		11名
1月15日	アレルギーの講話		6名
2月15日	ひな祭り飾り		6名
3月15日	お話会	2名	2名

今年度は、毎月開催できた。工作・講話・体操等も行った。

毎回、楽しみに参加しているという声を聞いた。

施設入所のこと、今後の生活について等の相談もあった。



②地域サポート施設活動として地域の高齢者9名の登録があった。

- ・安否確認の訪問 延べ28件
- ・安否確認の電話 延べ726件
- ・外出支援サービス 延べ79件（金融機関、買い物、医療機関へ）
- ・その他代行支援 延べ19件（薬の受け取り、買い物など）

③不藤、広田南地区の方中心に毎週木曜日9時30分から1階食堂を開放して

いきいき百歳体操を行っている。

(3) 社会福祉法人としての公益性の遂行

① ほっとかへんネットの活動への参加

- ・実務担当者会議は、困窮グループとして年6回参加する。
- ・ほっとかへんネット推進会議への参加。(2回)
- ・架け橋パントリープロジェクトへの参加。(8月・12月)
- ・災害ボランティアセンター設置運営訓練への参加。(11月)
- ・ふれあい交流の集いへの参加。(11月)
- ・緑防災カフェへの参加。(1月)
- ・ほっとかへんネットで移動支援に取り組む先進地への視察研修への参加。(2月)
- ・兵庫県災害派遣福祉チーム(DWAT)へ4名登録し養成研修を受けた。
- ・DWAT派遣調整訓練への参加。(1月)

23 入所検討委員会

(1) 緊急性、必要性の高い人へのスムーズな入所検討

① 月1回検討会を開催し、緊急性や必要性を鑑みて検討した。

入所区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所待機者	72	79	86	82	77	76	84	83	84	83	84	76
新規申込者	4	8	10	1	5	1	9	5	2	5	5	6
申込取消者	13	1	3	6	9	2	1	7	3	5	4	14

年1回(3月)に状況確認を行った。

8月に南あわじ市・洲本市へ申込状況調査を報告した(淡路市は該当者がいない)。

Ⅲ 短期入所生活介護事業

1 施 設 の 概 要

- [1] 名 称

特別養護老人ホーム 緑風館
- [2] 所 在 地

兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設

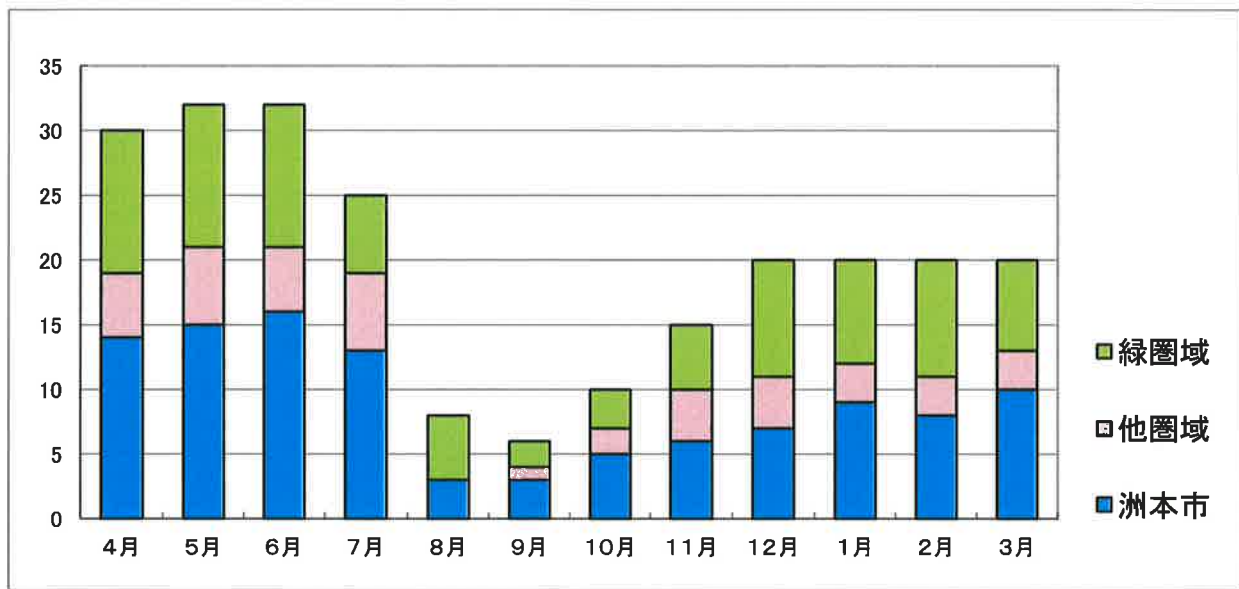
平成6年6月20日
- [4] 設 置 運 営

社会福祉法人 緑風会
- [5] 定 員

10 名

2 市町別利用状況

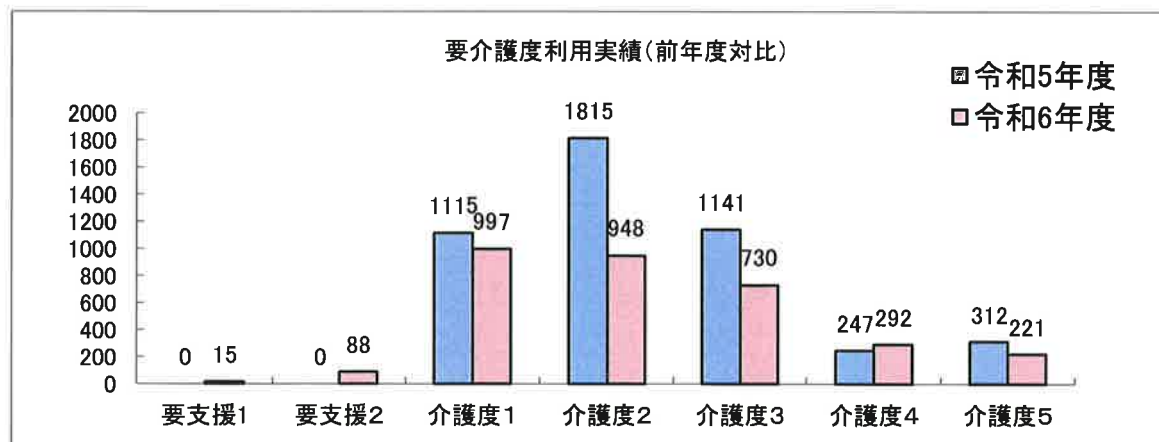
区分			令和6年度												合 計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
南 あ わ じ 市	緑 圏 域	実人数	11	11	11	6	5	2	3	5	9	8	9	7	87
		延人数	162	181	114	56	54	60	66	72	134	135	93	88	1215
	他 圏 域	実人数	5	6	5	6	0	1	2	4	4	3	3	3	42
		延人数	69	73	94	91	0	6	46	37	45	44	33	32	570
洲 本 市		実人数	14	15	16	13	3	3	5	6	7	9	8	10	109
		延人数	124	136	132	141	65	90	123	74	143	180	137	161	1506
実人数合計			30	32	32	25	8	6	10	15	20	20	20	20	238
延人数合計			355	390	340	288	119	156	235	183	322	359	263	281	3291



3 要介護度別利用実績

区分		5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	人	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	延	0	5	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	平均	0.0	2.5	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
要支援2	人	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	7
	延	0	0	0	0	8	3	30	31	7	3	6	0	0	88
	平均	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	3.0	30.0	31.0	7.0	3.0	6.0	0.0	0.0	12.6
要介護1	人	76	5	6	8	6	2	2	3	5	6	4	7	7	61
	延	1115	78	88	106	77	54	60	66	69	99	101	92	107	997
	平均	14.7	15.6	14.7	13.3	12.8	27.0	30.0	22.0	13.8	16.5	25.3	13.1	15.3	16.3
要介護2	人	126	11	12	10	6	0	1	1	5	5	5	5	6	67
	延	1815	138	151	94	71	0	6	31	55	105	106	89	102	948
	平均	14.4	12.5	12.6	9.4	11.8	0.0	6.0	31.0	11.0	21.0	21.2	17.8	17.0	14.1
要介護3	人	108	8	9	9	8	2	2	4	3	4	5	2	2	58
	延	1141	97	101	101	88	62	60	84	23	59	45	5	5	730
	平均	10.6	12.1	11.2	11.2	11.0	31.0	30.0	21.0	7.7	14.8	9.0	2.5	2.5	12.6
要介護4	人	32	2	2	3	2	0	0	1	1	3	3	4	3	24
	延	247	15	16	18	21	0	0	23	29	42	46	44	38	292
	平均	7.7	7.5	8.0	6.0	10.5	0.0	0.0	23.0	29.0	14.0	15.3	11.0	12.7	12.2
要介護5	人	25	2	2	2	2	0	0	0	0	1	2	2	1	14
	延	31.2	22	24	21	23	0	0	0	0	14	55	33	29	221
	平均	12.5	11.0	12.0	10.5	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	27.5	16.5	29.0	15.8
合計	人	367	30	32	32	25	5	6	10	15	20	20	20	19	234
	延	4630	355	390	340	288	119	156	235	183	322	359	263	281	3291
	平均	12.7	11.8	12.2	10.6	11.5	23.8	26.0	23.5	12.2	16.1	18.0	13.2	14.8	16.1

※ 人(実人員) 延(延べ利用日数) 平均(ひとり当り利用日数)



Ⅳ 通所介護事業

1 施設の概要

- 〔1〕 名 称 緑 風 デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー
 〔2〕 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
 〔3〕 開 設 平成6年7月1日
 〔4〕 設置運営 社会福祉法人 緑風会
 〔5〕 利用定員 35 名

2 利用者状況

① 地区別利用者数(登録者数)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
南あわじ市	広田広田	6	7	6	6	6	6	6	5	5	5	6	6
	広田中筋	6	6	6	6	6	7	6	6	7	7	7	7
	山 添	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2
	中条中筋	5	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4
	中条徳原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	中条広田	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	倭文庄田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	倭文長田	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2
	倭文土井	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	倭文安住寺	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
	倭文流	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	松帆地区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	志知地区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	市地区	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
	榎列地区	3	2	2	2	2	1	1	1	1	0	0	0
	八木地区	3	3	3	3	2	2	2	3	3	3	3	2
	神代地区	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
	賀集	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
洲本市	前平・木戸・池内	5	5	5	4	4	4	4	4	5	5	5	5
	宇 原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	大 野・金屋	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	鮎 屋	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	2	2
	千 草	3	3	3	4	4	5	5	4	4	4	4	3
	納	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1
	物部地区・海岸通り・本町・塩屋・栄町・小路谷	4	4	4	3	3	3	4	4	3	3	3	3
	内膳・加茂・宇山	2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	3	3
	五色町鳥飼・下堺	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計		66	64	60	60	59	60	60	60	61	59	62	59

② 年齢別利用者状況（令和7年3月31日現在）

区分	～60歳代	70～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合 計
支援	0	1	3	4	6	14
介護	1	6	7	18	13	45
計	1	7	10	22	19	59

3 生活相談員

(1)在宅生活の継続支援

①送迎時や電話連絡にて、在宅での状況を確認し、家族と情報共有を行った。

②ケアマネジャーからの依頼にて、担当者会議に参加し、情報共有を行った。

利用者に状況の変化があった際には、担当者会議を依頼し、事業所と情報共有を行い支援した。

③利用時やケアプラン等で、ニーズの把握を行い支援を行った。

(2)経営継続維持

令和6年度 実人数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	22	23	20	23	23	23	23	21	20	20	20	21	259
体験利用(見学含む)	1	0	1	1	1	1	1	2	0	0	0	0	8
新規	要支援	1	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	7
	要介護	3	1	0	2	1	1	2	1	3	0	2	16

令和6年度 実延利用者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援1	実	5	5	4	4	4	6	6	7	7	7	8	5.9
	延	25	29	24	25	27	35	41	47	44	40	52	36.6
要支援2	実	5	5	5	4	4	5	4	4	5	5	6	4.8
	延	33	28	30	32	28	24	22	15	22	16	29	25.5
要介護1	実	26	26	25	28	29	29	29	27	27	24	23	26.2
	延	265	267	230	301	291	298	319	271	267	237	246	270.5
要介護2	実	15	14	12	11	10	10	11	14	15	14	15	12.9
	延	138	127	95	90	87	90	113	129	132	121	118	112.3
要介護3	実	11	11	9	7	5	5	4	5	4	4	5	6.3
	延	85	100	70	48	55	42	38	39	33	27	33	50.3
要介護4	実	4	3	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3.3
	延	29	25	24	28	28	23	30	28	26	24	23	26.1
要介護5	実	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
総合計	実	66	64	58	58	56	58	57	60	61	57	60	712
	延	575	576	473	524	516	512	563	529	524	465	501	6256

開所日数	259	1日平均	24.2
------	-----	------	------

- ①目標27名に対して、目標達成率90% 1日平均24.2名
- ②担当ケアマネジャーへは、利用実績と担当利用者の状況を写真入りで報告した。
- ③入院・利用休止者には、電話連絡やご自宅への訪問、ケアマネジャーに状況を確認した。
- ④短時間利用(午前・午後のみ、入浴のみ)で19名の利用があった。
- ⑤8名の体験利用(見学含む)をして新規利用につながった結果は7名であった。
- ⑥キャンセルの連絡時には内容を確認し、訪問や再度連絡を行った。希望時には振り替え利用を受け入れた。

(3) 専門職としての資質向上

- ①月1回、デイ会議を開催し、全職員で利用者の支援や業務について意思統一を図った。
- ②施設内研修やオンライン研修へ参加し、個々のスキルアップや再確認に繋がった。
- ③認知症基礎研修の対象者はいなが、更なるスキルアップ研修を推進していく。
- ④感染症予防・対策、防災について、施設内研修や委員会で情報収集を行った。
防災訓練については、実施には至らなかった。
- ⑤個別シートにて、個々の年間目標を設定し、達成に向けての面談を実施した。

4 介護係

(1) 自主活動・自立への支援

- ①利用者自身に役割を担っていただくことで、在宅生活が継続できるよう意識づけをし、心身の機能維持に繋がった。(食事の配膳、おしぼり配り、おやつ準備、おしぼり巻、コーヒーの準備等)利用者ごからの自主的な参加が多くみられた。



コーヒー準備



おしぼり配り

- ②利用者や家族と情報交換を行い、クラブ活動への参加、役割を担って頂くことで心身の機能維持や家族の負担軽減を支援した。
- ③利用者が作業しやすいテーブルや鏡の高さ、表示など環境を整備し、行動しやすい環境を整えた。



昼食準備



コップ洗い

- ④個々の生活や得意分野を把握し、利用者が意欲をもって考えて行動することで、基本的動作(ADL)、手段的日常生活動作(IADL)の維持と認知症の進行予防の支援を行った。
- ⑤利用者自身の持つ力を活かしながら、ゆっくりと入浴できるように支援した。
感染予防対策として、浴室に入る利用者の人数を制限して対応した。

その日の状態に応じ一般浴と中間浴の利用を検討し、安心して入浴できる体制をとった。
入浴時間は午前と午後に分け、入浴剤やゆず湯など、リラックスできる環境を継続した。
⑥季節にあった調理や、自施設で育てた農作物を使った旬の食べ物を提供できた。



⑦毎食前の嚥下体操、毎食後の口腔ケアを継続した。
⑧入浴時、男女の掲示やパテーションやカーテンなどを設置し、プライバシーへの配慮を行った。

(2) 衛生管理・感染予防

①職員は、出勤・退勤時、作業前に手洗い・消毒、出勤時の検温を行った。毎月の職員目標などにも感染予防の目標を掲げ、職員の意識づけを継続して行った。

利用者にも、マスクの着用、来館時、食事前等の手洗い・消毒の実施を声かけし実施した。

②利用者・家族などの感染状況や、感染症対策について、常に情報収集し職員に周知した。

(3) 社会参加への支援

①デイサービスを利用し役割を担っていただくことで、利用者自身の意欲向上、できることの発見と活気ある生活に繋げることができた。

利用者から、「何かできることがあれば、言って下さい。」との声が多数、伺えた。

②園児・地域ボランティアなどの慰問による交流にて、利用者の笑顔がみられた。

他者との交流により、活動意欲の向上に繋がった。

③活動の中で、雑巾を作ったが、感染予防の為、地域交流が行えず、寄贈できなかった。

④季節毎のドライブや買い物支援を通して、地域へ出向くことができた。

知人と偶然会う事ができた際には、話が弾み喜んでいた。

5 機能訓練指導員

(1) 利用者の心身機能の維持向上・自立支援

個別機能訓練加算人数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個別機能Ⅰ	実	53	51	46	46	44	43	43	46	47	44	43	40	546
	延	464	464	373	412	407	400	439	422	458	372	379	407	4997

①職員が関わる中で、できることを見つけ、取り組むことで、意識の向上・自立支援へ繋がった。

②自分の意思でクラブを選択し、より自主的に楽しくクラブやリハビリ活動ができた。

③心身機能の維持を図り、予防対策として栄養確保・運動活動・社会参加を進めることができた。

④ICT活用による加算習得には至らなかった。



踏み台昇降運動



個別階段運動

- ・ 調理や洗濯、掃除の活動、役割づくりを通して社会参加・心身機能の向上を支援した。



調理



メダカのエサやり

- ・ 5人程度の小集団や個別での訓練を実施。



平行棒運動



屋外散歩

6 看護係

(1) 利用者の健康管理

- ①朝礼で情報を共有し、自宅への迎え時、利用開始時の健康状態を共有した。
- ②フロアに温度・湿度計を設置し、湿度が低い時には加湿器を使用し乾燥予防に努めた。感染症予防の為、定時に換気を徹底し行った。
- ③慢性疾患の状態把握を行い、3カ月に1回、家族に電話での状態確認やお薬手帳の提示を依頼し、薬剤の再確認を行うことで疾病に対して、早期対応を行った。

(2) 感染予防対策

- ①迎え時、来館時、昼食時、おやつ前、帰宅前には、手洗い・消毒を励行し、感染予防に努めた。また、不織布マスク着用と予備マスク持参を継続して促した。
- ②リハビリ機器、クラブ活動道具、机や椅子など使用した物品は使用後に消毒を実施した。
- ③週1回、床を次亜塩素酸ナトリウム溶液での清掃を継続した。
- ④毎日、利用者への感染予防協力の呼びかけを行った。体調に変化があった際には報告の協力をしてもらう事で、感染症拡大防止に繋がった。
- ⑤本人または同居家族において風邪症状や発熱がある、PCR検査等を受ける予定の場合は当事業所へ連絡していただくようにした。体調不良時の対応フローチャートを新規利用者に対して、説明し配布した。
- ⑥送迎時には、体温測定・手指消毒の実施、玄関フロアで体温測定を実施した。

7 クラブ活動

クラブ活動は、利用者が選択できるよう、3メニュー用意し活動参加している。
今年度も、感染予防対策を重視し、3密対策に注意して実施した



棒投げ入れゲーム



グランドゴルフ



ぬいぐるみ落とし



工作



裁縫



園芸

8 年間行事

外出行事は買い物とドライブを行った。

季節の行事は、利用者同士が密にならないように工夫して、実施した。



夏祭り



ドライブ(梅林)



寿司バイキング



運動会



秋の外出



鍋パーティー

V 小規模多機能型居宅介護事業

1 施設の概要

- 〔1〕 名 称 みどりの家
 〔2〕 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田広田424-1
 〔3〕 開 設 平成21年4月1日
 〔4〕 設置運営 社会福祉法人 緑風会
 〔5〕 利用定員 登録 25名 通い 15名 泊まり 9名
 〔6〕 土地・建物 敷地面積 247.93㎡(借地)
 建物構造 鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建
 建物延面積 372.48㎡

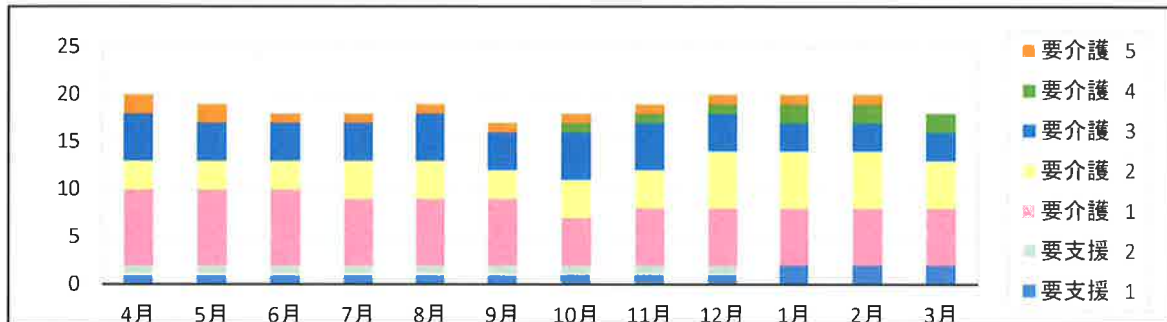
2 管理者

(1) 目標登録件数の確保

① 登録者19名(介護15名 支援4名)の確保

【 登録者数 】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R5年度
要支援 1	4	3	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	3.8	2.4
要支援 2	0	0	0	0	3	3	2	2	2	2	2	2	1.5	0.5
合計	4	3	4	4	7	7	6	6	5	6	6	6	5.3	2.9
要介護 1	4	5	5	4	5	6	6	6	6	7	6	6	5.5	4.9
要介護 2	5	5	5	5	4	4	4	5	6	6	6	6	5.1	5.3
要介護 3	3	3	3	4	3	2	2	2	2	1	2	3	2.5	2.3
要介護 4	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1	2.1	2.1
要介護 5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	0.2
合計	16	17	17	17	15	15	15	16	17	16	16	17	16.2	14.8
総合計	20	20	21	21	22	22	21	22	22	22	22	23	21.5	17.7



【 サービス実績 】

サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R5年度
通 所 (1日あたり)	393 13.1	431 13.9	371 12.0	396 12.8	306 9.9	389 12.9	433 14.4	438 14.6	419 13.5	400 12.9	376 13.4	413 13.3	397 13.1	384 12.6
宿 泊 (1日あたり)	231 7.7	231 7.6	212 6.8	246 7.9	184 5.9	189 6.3	237 7.9	221 7.3	197 6.3	184 5.9	154 5.5	186 6.0	206 6.8	220 7.2
訪 問 (1日あたり)	45 1.5	60 1.9	80 2.6	77 2.5	82 2.6	98 3.2	115 3.8	132 4.4	116 3.7	113 3.6	109 3.8	120 3.9	95.6 3.1	69.1 2.3
短期利用	0	2	0	10	28	6	4	7	1	2	0	0	60	24

② 事業所活動の情報発信

運営推進会議での事業所活動内容紹介、地域ケア会議での事業所PRを行った。
 地域のサロンへの参加はしていない。

(2) 施設サービスの充実

- ① 10月小規模多機能計画作成担当者研修、10月介護テクノロジー導入研修、11月ケアプラン作成研修、12月リスクマネジメント研修、1月ケアパレット研修、3月福祉機器研修の外部研修を行った。
- ② 法人全体の研修・訓練で実施した。
- ③ 感染対策をしながら、状況に合わせて季節の行事を行った(後記の写真参照)
- ④ 地域ケア会議は6月、9月、2月、3月以外は毎月出席し、ウエルシアの介護相談会は7月、8月、9月、10月、2月に出席した。
- ⑤ 中田地区の防災研修に参加、広田小中保合同避難訓練は感染症の流行期のため欠席した。
- ⑥ ウインズきららと徳島のパン屋の訪問販売、涼み処によりみどりの家の集いの場を提供した。
近所の方の軽作業ボランティアやトライやるウィークの受け入れを行った。

3 介護支援専門員

(1) 24時間、365日その人らしい暮らしへの支援

- ① 馴染みの地域での資源を継続して利用できる支援(散髪屋、いきいき百歳体操、マッサージ施設商店など)を行った。
- ② 入院時、介護情報提供書を迅速に医療機関に提供(6件)ができた。
- ③ 新規利用者や状態変化した利用者とのカンファレンスを実施した。
- ④ 個別避難計画の作成はできていない

4 看護係

(1) 感染症の発生・まん延予防

- ① 来所者やトイレ使用時、食事時など場面での手洗い、手指消毒を強化した。
- ② 手洗い、手指消毒の徹底を職員、利用者、来所者で行い衛生管理、感染症予防に努めた。
- ③ 必要物品の備蓄確保と、マスク、消毒液、加湿器を適切に使用した。
- ④ 検温の定期的に行いながら、体調不良時は迅速に医療機関へつないでいった。
- ⑤ 法人全体の研修・訓練で実施した。

(2) 体調管理の支援

- ① 新規利用時に既往歴の確認。内服薬は、利用者個々の服用一覧表と薬の効能表を作成した。
- ② 医療機関受診時には、看護師が介護情報提供書を作成し、37件の情報提供を行うことでスムーズな受診に繋げることが出来た。
- ③ 介護情報提供書を作成することにより、本人・ご家族が伝えきれない情報を提供することができた。

5 委員会活動

(1) 食事委員会

- ① 花を植えていることがあり、ネギのみ収穫した。
- ② 厨房の整理整頓、食材の在庫管理、調理器具の衛生管理を徹底して安全で美味しい食事を提供した。
- ③ 嗜好調査のアンケートは実施できなかった。
- ④ 非常食は確保して更新できた。

(2) 介護委員会

- ① 各種発見、ひやりハット、事故報告は以下のとおり

【各種発見】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R5年度
転倒	1	2	4	1	0	2	3	1	1	2	1	0	18	16
転落	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	11
あざ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
その他	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2
合計	1	3	6	2	0	2	3	2	1	2	1	0	23	32

【ひやりハット】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R5年度
転倒・転落	1	3	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	8	2
怪我	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
誤嚥・誤飲	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
医療	2	0	0	3	0	3	1	3	0	1	1	0	14	1
紛失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	2	1	3	2	3	2	0	1	0	4	0	0	18	8
合計	6	4	4	6	4	5	1	4	0	6	2	0	42	16

【気づき】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R5年度
	1	1	1	2	9	0	0	2	0	4	0	0	20	14

【事故報告書】

	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院 有無
1	令和6年4月14日	転倒	第12胸椎圧迫骨折	女	鈴木整形外科	無
2	令和6年7月28日	感染症	新型コロナウイルス感染症クラスター	利用者7名・職員1名		無
3	令和6年8月21日	感染症	新型コロナウイルス感染症クラスター	利用者3名・職員3名		無
4	令和6年12月30日	転倒	右大腿部転部骨折	女	鈴木整形外科	有

② 利用者のADLに適応した施設環境(表記の充実、介護しやすい環境)を提供した。身体機能を低下させることなく自立した生活が送れるよう問題があれば都度対応した。

③ 認知症症状に対応した環境整備(表記の充実、利用者の安心できる環境、好きなものに囲まれた環境)を行った。

(3) レクリエーション委員会

① 利用者の好きな手芸、絵画などを充実できた。

② 個々の能力に合わせた工作活動や脳トレを実施した。

③ 誕生日会や年間行事、日常生活など通い利用者には、画像をプリントアウトしてご家族に見てもらった。LINEやSNSを利用して画像や動画を送って活動内容を伝えた。

6 年間行事

月度	行事内容
4月	外出会花見成相方面 (4/2・3名、4/5・4名)
5月	ドライブ大浜三熊山 (5/6・3名)、生石公園(5/7・3名)、門崎(5/8・3名) 諭鶴羽ダム美菜恋来屋(5/11・3名)、鮎屋ダム(5/13・1名)、慶野松原(5/15・2名)

6月	外出会カプチーノ(6/6・4名、6/11・2名、6/12・4名、6/19・2名、6/20・1名)
7月	七夕祭り(7/5・15名)
8月	夏祭り(中止)
9月	敬老会(9/13・15名)
10月	運動会(10/11・14名)、外出会五色(10/4・3名)、ドライブ(10/7・3名) 諭鶴羽ダム(10/12・3名、10/14・3名、10/16・3名)
11月	市文化展参加(11/1・2名)
12月	クリスマス会(12/24・14名) お餅づくり(12/27・14名)
1月	新年会(1/7・11名)
2月	豆まき会(2/3・14名)
3月	ひな祭り会(3/6・14名) 広田梅林散策(中止)

みどりの家 日頃の様子



花見外出会 (4月)



菜の花外出会大野(4月)



うすの丘外出会(6月)



諭鶴羽ダム外出会 (6月)



大浜外出会 (6月)



井本産業りんごまつり参加



屋外喫茶風景



囲碁風景



調理お手伝い



食器洗いお手伝い



水やりお手伝い



洗車お手伝い



シーツ交換お手伝い



ドライヤーお手伝い



自家製干し柿おやつ



玄関のスクリーン選び



防火訓練



利用者様からの花提供



トライやるウィーク



近所の方のボランティア



地域へ涼み処を開放



きららパン訪問販売



土用の丑のうなぎ丼



喫茶カプチーノ外食会



ひなまつり会バイキング

VI 居宅介護支援事業

1 施設の概要

- 〔1〕 名 称 社会福祉法人 緑風会 緑風館
 〔2〕 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
 〔3〕 開 設 平成11年10月1日
 〔4〕 設置運営 社会福祉法人 緑風会
 〔5〕 併設施設 特別養護老人ホーム 緑風館

2 介護支援専門員

(1) ケアプラン作成件数

区 分			令和 5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
予防 プラン	要支 援1	洲本	31	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	15	1.3
		南あわじ	288	22	24	23	23	23	23	19	18	17	15	17	17	241	20.1
	要支 援2	洲本	81	8	8	7	7	7	7	5	5	5	4	5	5	73	6.1
		南あわじ	351	19	19	18	18	17	19	17	16	15	14	13	13	198	16.5
	合 計		751	51	53	49	49	48	51	42	40	38	34	36	36	527	43.9
介護 プラン	要介護1		453	43	45	44	43	44	43	40	40	39	40	36	34	491	40.9
	要介護2		245	24	24	24	21	20	18	18	21	19	17	18	14	238	19.8
	要介護3		228	18	18	18	16	15	16	15	13	12	11	9	10	171	14.3
	要介護4		93	7	8	6	8	8	7	8	8	8	5	5	5	83	6.9
	要介護5		38	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	4	3	29	2.4
	合 計		1057	94	97	94	90	89	86	83	84	81	76	72	66	1012	84.3

① 要介護者は月平均84.3件となり目標の90件を下回った。

人員減少に伴い常勤換算が、4月から9月は3.3、10月から3月までは2.3に変更となった。

要支援者は月平均43.9件となり目標の60件には届かなかった。

新規の依頼は、介護が18件(月平均1.5件)、支援が7件(月平均0.6件)であった。

新規依頼のうち、直接依頼が14件と昨年より2件少なかった。

地域包括支援センターとの連携により、5件の依頼があった。

人員減少により、新規利用者の受け入れが難しかった。

加算状況については、以下の通りである。

区 分		令和 5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防 プラン	初回	18	1	2	0	2	1	1	0	0	0	0	2	0	9
	委託連携	17	1	2	0	2	1	1	0	0	0	0	1	0	8
	小規模連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護 プラン	初回	47	2	4	1	4	1	1	3	4	3	2	3	2	30
	医療連携Ⅰ	22	2	1	4	2	3	1	1	1	1	2	7	1	26
	医療連携Ⅱ	1	2	1	3	2	0	1	0	0	3	1	0	1	14
	小規模連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定事業所Ⅲ	1057	96	97	96	91	91	86	0	0	0	0	0	0	557
合 計		1162	104	107	104	103	97	91	4	5	7	5	13	4	644

(2)住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるための支援

①一人暮らし、高齢者世帯の方の状況は、必要に応じて民生委員と情報共有を行ったり、在宅介護支援センターを通じて情報共有を行った。

②ケアプランを作成し、かかりつけ医に70件提示。利用者との情報交換を行った。

③提供票やケアプランを事業所へ持参した際に情報収集を行った。また、事業所より利用状況連絡票を通じて状況を確認したり、SNSを活用して情報収集をした。

④各保険者や地域と情報収集を行い、個々の利用者に応じた保険外のサービスを活用した。内容として、市や民間の配食サービス、オムツの支給、外出支援サービス、移動スーパー、地域サポート施設(LSA)、ごみ出し事業の支援を行った。

(3)緊急時の体勢整備

① 地域や事業所での情報収集を一早く行い、利用者・家族・サービス事業所との調整を行った。サービスを休業した利用者には、代替サービスの調整や電話連絡、訪問等で状況確認を行った。

② キーパーソンの生活スタイルを確認し、同意のもと、電話連絡以外にもSNSなどの連絡方法を利用。写真の送信やテレビ電話なども行い、連携を図った。

③ BCP訓練セミナーを受講、机上訓練を行った。緊急災害時の情報更新に関しては都度見直しを行った。

(4)介護保険制度の周知と理解、事業所の広報

① 介護保険制度改正解説セミナーを受講し制度について学んだ。また、他法人との共同研修会にも参加し情報交換をした。

② 新規利用者を担当した際、FAX又は訪問にて挨拶を行った。広報冊子の更新はできなかった。

③ 施設内研修での周知はできなかったが、個々の相談に対応した。

④ 地域にある店舗のスペースを借り、無料相談会は毎月開催した。介護保険制度に関する話ではできなかった。

⑤毎月ウエルシア介護相談会に参加。地域住民の方と一緒に作品を作ったり、話をしたり、講話を受けた。

(5)利用者、家族に満足していただける事業所作り

① 週1回の連絡会にて担当外の利用者の状況を共有。困難事例に対しては、事業所内で事例検討を行い、関係機関へも結ぶことができた。

(6)介護支援専門員としての質の向上

① 9月まで年間計画に沿って、研修を実施。担当者を付けることでスキルアップにも繋がった。10月以降は人員減少に伴い研修ができなかった。

② 6月(各事業所に関連するサービスの紹介)に参加。10月から人員減少に伴い、参加できなかった。

③ 月1回の南あわじ市、洲本市の介護支援専門員連絡会へ参加。他事業所との情報交換もできた。

④南あわじ市介護支援専門員会に毎月参加、洲本市は5回参加して研修を受けた。

web研修も2回参加する。(2024年度介護保険制度改正解説・BCP訓練セミナー)

⑤ケアプランデータ連携システム、ICT等の活用に向けての情報収集はできなかった。

IX 在宅介護支援センター

1 施設の概要

〔1〕 名 称	緑風在宅介護支援センター
〔2〕 所 在 地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
〔3〕 開 設	平成6年6月27日
〔4〕 設 置 運 営	社会福祉法人 緑風会
〔5〕 併 設 施 設	特別養護老人ホーム 緑風館

2 活動実績

区 分	5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
活動日数	開所日数	248	23	22	20	21	22	18	22	20	23	14	15	235 日
	訪問回数	110	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5 回
	会 議	38	2	3	2	2	2	2	1	0	1	2	3	23 件
	家 族 会	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3 件
	出前指導	6	1	0	3	0	3	1	1	2	1	2	2	16 件
	新 規 出前指導	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件

※訪問回数は、相談依頼の対応と市の配食サービス、紙オムツ支給サービスのアセスメント調査

（コロナ禍のため、訪問となっているが電話対応した件数も含まれる）

※出前指導は2回目以降の認知症サポーター養成講座・サロン等の集まり、新規出前指導は初回の認知症

サポーター養成講座表

3 会議の内訳

(件)

区 分	5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
地域包括在介 連絡会	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
その他の会議	24	1	3	2	2	3	2	2	2	2	2	3	3	27
合 計	36	2	4	3	3	4	3	3	3	3	3	4	4	39

※ その他の会議は 緑地区地域ケア会議や民生児童委員会などである。

4 いきいき百歳体操・認知症サポーター養成講座の内訳

(件)

区 分	5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
いきいき百歳体操	5	0	0	2	1	1	2	0	1	0	0	2	0	9
認知症サポ ーター養成講座	11	1	0	3	0	3	1	1	2	1	2	2	0	16
合 計	16	1	0	5	1	4	3	1	3	1	2	4	0	25

5 相談内容別実績

(件)

区 分	5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
在宅生活関係	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
情報提供	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
相談実人数	12	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	2	6

※見守り訪問の対象者がおらず、相談件数が少なくなった。

6 調査訪問内容別実績

(件)

区 分	5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
オムツ調査	54	2	3	2	2	2	0	0	0	0	28	18	7	64
配食調査	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	9	1	16
継続見守り	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	110	2	3	2	2	2	0	0	0	0	34	27	8	80

※9月～12月の間、人員不足の為に調査の受け入れができなかった。

令和6年度 事業計画に対しての取り組みと結果

(1) 相談窓口体制の整備

①感染対策を行いながら、ウエルシアでの介護相談会を毎月開催し一緒に手芸や体操等を行う。

必要時、自宅へ訪問したり民生委員と連携を図り対応をする。

②地域ケア会議や民生児童委員会、いきいき百歳体操、認知症サポーター養成講座、介護相談会時に在宅介護支援センターの役割について説明を行った。

③ウエルシア広田店で毎月介護相談会を開催する。

毎月7名程度の方が来られた。

(2) 認知症になっても安心して生活できる地域作り

①認知症サポーター養成講座を市内で16回開催する。

②認知症サポーター養成講座開催時には、認知症カフェ、家族会のパンフレットを配布し、認知症の方その家族への支援体制があることを周知する。4月、3月に家族会やカフェに参加し意見交換をする。

(3) 地域包括支援センターとの連携（委託事業の推進）

①地域包括支援センターからの依頼があれば、配食サービスのアセスメント調査を行い、在宅高齢者の生活状況を確認し連携を図った。

②地域包括支援センターからの依頼があれば、紙おむつ支給のアセスメント調査を行い、在宅高齢者の生活状況を確認し連携を図った。

③委託を受けての見守り高齢者は今年度は0件だった。

地域サポート施設登録者2名が介護保険を申請、うち1名はサービス利用に繋がった。